

聖化

2006.1.22

日本聖化交友会機関誌

No. 39



聖化の恵みに思う

東海聖化交友会会長
インマヌエル四日市教会牧師

西田 价宏

このたび、東海聖化交友会の会長に推されて、小さき者が立たせて頂くことになりました。東海地区では、年に二回の集まりを持っています。六月の終わりには、日本各地から講師を招いて、きよめの恵みを語って頂きます。わずか百年少しの宣教期間しかたっていない日本のクリスチャンが、しっかりと聖化の恵みを捉える努力をしていることを学んでおられます。今年も、村上宣道先生を通して、わかりやすく、聖書に即して、具体的な恵みの世界を語って頂きました。こうした取り組みは、これからも欠かせないと思います。いろいろな器の信仰体験を通して、聖化の恵みが整理され、だれでも受けることのできる、また招かれている恵みとして、さらに広く証しされていくことを願っています。

さて、こうして聖化の恵みを取り次がれている中で、若い人たちが、この恵みに燃やされて、大いに賛美し、証しをし、主の御名の栄光を現わすわざにぜひ参加してほしいと願っています。東海地区ではまだ具体的にありませんが、関東などで青年大会が開かれていることに関心を抱いています。聖化の証しの将来は、若い人たちにあるからです。何とかして、若い証し人が育っていくようになってほしいと思います。お祈りの課題の一つでしょう。

罪によって汚されている面を捉えて言ったものと思います。主ご自身が人間となられたことは、肉を滅ぼすためではあっても、人間を滅ぼすめではないはずですが、この二つを区別するのが難しいとき、聖化の信仰にはしっかりと立つことが難しくなるのではないのでしょうか。だから、こういうことをわかりやすく、また聖書に則って、整理し提示してください。時代は進んでいきます。しかし、聖書に立つて救いを証しし、きよめを証しする人々が次々と起こされることを祈らなければならぬと、つくづく考えさせられています。聖霊の救うみわざ、聖くするみわざがなされるように、祈りのうねりが起こされますように。

言葉は、人間性そのものではなく、

メッセージ概要(於淀橋教会)

聖会Ⅰ『たとえ話の奥義』(マタイ十三章一〜十七節)

ニール・アンダーソン博士

この十三章のみことばは読み手に大きな疑問を与えてきた。なぜ、イエス様はたとえで語られたのか。①神の国は神秘だから(十一節)。当時、神様に關して「神秘」ということは珍しくない概念であった。なぜなら当時の異教には神秘が満ちていたからである。イエス様はこの神秘、奥義ということばをどのような意味で使われたのだろうか。共観福音書のどの書にも出てくるイエス様への質問の中に「戒めの中でどれが最も大切ですか。」というものがあるが、そこでイエス様は「心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くしてあなたの神である主を愛せよ。」「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」と答えられた。このみことばは最初に申命記六・五、レビ記十九・十七に出てくる。神の国は神秘であるのは、神の国が場所ではなく、関係であるからである。そしてイエス様がたとえで語られたのは、

神の国がそのような意味で、神秘(奥義)だからである。②ある人々は見、聞くが理解しないから(十三節)。イエス様は持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者は持っているものまでも取り上げられてしまうと仰せられた。それはまた神様の恵みの中に入っていくなら、さらに恵みが注がれていくが、拒むなら、残された小さい希望さえ失ってしまうということである。聖書が神様を隠された御方として記しているのは興味深い。しかしまた、神様はご自身を現そうと決断されたのである。キリスト教の信仰とは神様が行動を起こされて、人類にご自身を現されたという信仰である(ダニエル二・二十一〜二十二)。

霊的に目が見えない、耳が聞こえないということとは、人々がそれを選び取ったからである。彼らは、弟子となること、すべてをささげるといふ犠牲を嫌がって、信じようとしないのである。イエス様がたとえで語られたのは、人々が見、聞いても、それを受け入れようとしないからである。③信仰の目と耳を持つものだけに理解されるためである(十六節)。この地上のすべての人間が求めているものは「幸せ」である。イエス様は十六節で、どのような人々が幸い(福マッカー)であるかを述べておられる。そのことはアウグステイヌスの著書「告白」の十章の中にも告白されている。イエス様はまた、マタイ五章でも幸いについて述べておられる。ホーリネスなしに、永続的な幸せはありえない。たとえは、神の国への巡礼へと私たちを招く。そしてその招きに答えた人々は、真の幸せを見出し、後の世においても絶えることのない幸せを経験する。

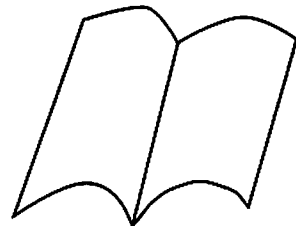
(文責・長井主恩)

「キリストの心に乾く、そして生きる」

2005年の東京大会が20回目という記念の年を迎えたこともあって、2004年の第19回聖化大会講演等を記念出版いたしました。ウィリアム・ユリー博士のメッセージが再びよみがえり、迫ってくる思いがします。是非ご購入を。

1冊=1,000円。問い合わせは事務局、あるいは浅草橋教会までに。

書籍案内



2005年10月 第20回東京大会聖:

聖会Ⅱ 『焼き尽くす火』 (ヘブル十二章十八〜二十九節)

ニール・アンダーソン博士

私たちが生きているこの二十一世紀の初め、迫り来る世俗化の波におそわれている。きよい生活が捨て去られてしまっている。私たちはこのような時代の中で、伝統的な道徳的な生き方をしていくことが可能なのだろうか。しかし神は真実であるということをはつきりと示していくというチャレンジに私たちが答えて、立ち上がっていくとするなら、なお社会におけるキリスト教会にも希望がある。そして神がどんな御方であるかを再発見し、真の神の臨在を取り戻すのである。今晚のテキストの部分でヘブル書の記者は神を恐れかしこむことが大切であるという結論を出している。しかしそれでは終わらず、二十九節がある。この私たちの神が「焼き尽くす火」であるということばの意味するところが、私たちの生活、教会にいのちを取り戻す鍵である。このことを念頭に置き、私たちは二つの事を考えたい。(1)焼き尽くす火である神とはどのような方か。(2)その

ことは私たちにとってどのような意味があるか、である。ここから三つのことをお話ししたい。①私たちは聖なる神に近づいている。今日、神の臨在の深みを失っている。その原因の一つは文化が全ての事柄を目に見えるものに置き換えようとするためである。A.W. トウザーという傑出した神の器は一番大切な事は、私たちが神をどのような御方であると考えているか、ということであると述べている。このテキストにあるように神と火を結びつけることはふさわしいことである。神が火であるという事は、神は唯一聖い方であり、シナイ山の神であるということである。②同時に神は愛の神である。(ヘブル十二・二十二〜二十四)。イエス・キリストの十字架こそ、私たちが神の愛に引き戻すものである(C.S. ルイス著作「ライオンと魔女」から)。そして十字架は私たちの罪の深さを仕方がないことさと言わせない(アウグスティヌス著作「告白」から)。

そして十字架の犠牲的な愛は世界を変えるものである(グレゴリー・ニッサの言葉、ピリピ二章)。神は火であると言う時、二つの意味がある。一つは、私たちの罪を滅ぼす火という意味である。もう一つは神様に仕えたいと願う者を造りかえていく火という意味である。③この世俗的な社会の中にあつて、どのようにしてキリスト者として生きていけるだろうか。その答えは私たちが心の中に空っぽの部分があることを正直に認め、その心の中に神様がみわざをなしてくださることを待ち望むことである。皆さんが神様に用いられるためには、自分を覆っている一つ一つのよろいを脱ぎ捨てて、自分の中心にある部分を扱っていただき、変えていただく必要がある。しかし私たちの力ではできない。神様が私たちに力を与え、それをさせてくださる。神様にそれをしていただく。

(文責・長井主恩)

第20回聖化大会教勢・財勢表

教勢

月日	集会名	集会人数(名)
10月16日(日)	ブレイズ&トーク	207
10月17日(月)	レセプション	38
	講演 I	217
	講演 II	255
	神学生交歓会	110
	聖会 I	319
10月18日(火)	女性大会	281
	学びを深める時	192
	聖会 II	355

財勢

集会名	席上献金	予約献金	合計
聖会 I	345,131	1,137,500	1,482,631
聖会 II	497,464	577,600	1,075,064
講演 I	218,227	-	218,227
講演 II			
女性大会	276,859	417,000	693,859
ブレイズ&トーク	130,606	-	130,606
その他	3,204	78,000	81,204
合計	1,471,491	2,210,100	3,681,591

「聖化の輝き」 — 第7回岡山聖化大会の恵み —

岡山聖化交友会会長

日本イエス・キリスト教団香登教会牧師 工藤弘雄

岡山の地にはホーリネスの流れが脈々と流れています。西日本再臨待望大会、香登修養会が聖め信仰に立つ諸教会の協力によって祝福の内に営まれています。

ですから、少々過密なスケジュールを緩和するため、岡山聖化大会は隔年開催で今日まで行われてきました。本年は、久しぶりに邦人講師が立てられ、親密にストレートに聖化の恵みが語られ、大変祝福された時を持つことができました。講師は日本聖化交友会の責任を持たれる飯塚俊雄先生（東京若枝教会牧師、世界宣教研修センター校長）。会場は日本イエス・キリスト教団岡南教会。出席者は10数教会から110余名の教職、信徒たちでした。

飯塚俊雄先生のメッセージは主催者側の提示した主題「聖化の輝き」に即したもので、ルカによる福音書12章49節、「わたしは火を地上に投じるためにきたのだ。火がすでに燃えていたならと、わたしはどんなに願っていることか」を軸に、「天からの火」のメッセージでした。塩屋の神学生時代の内心の古い自我の深刻な取り扱いと鮮やかな聖霊のバプテスマの証詞を織り交ぜながら、聖霊の火により「焼き尽くされなさい」、キリストの御姿が「焼き付けられなさい」、聖霊によって「燃え上がりなさい」と迫られると、恵みのみ座にはほとんどの会衆が進み出るすばらしい恵みの聖会となりました。

聖化の恵みを共有し、宣証するこの大会には、いつも臨在の主が輝き、教団、教派を超えた愛の交わりがあります。聖なる主を慕い、聖化の恵みに渴くこの交わりが続いて岡山の地に根ざすようにお祈り下さい。

事務局・総務だより

▼第三十九号を発行することができました。昨年十月開催の全国各地における聖化大会の祝福を感謝致します。その聖化大会報告を中心にした今回号です。いつもより早めに報告号を発行することができ、感謝です。

▼三月十三日（月）には全国評議員会がお茶の水OCCビルで開催されます。今回は会長、副会長、役員の変更が行われます。御旨がなされるように、お祈りにお覚え下さい。（係）

2006年聖化大会主講師のお知らせ

ジム・ハリマン師

今年の聖化大会主講師は、ジム・ハリマン師です。先生は宣教師のご両親の息子として、南米ボリビアで育ちました。そのような、いわゆるスペイン文化の背景で育った経験は福音宣教の働きに広い理解を与えたものといえます。アズベリ大学とアズベリ神学大学院を卒業後、ハリマン先生ご夫妻（ご夫人の名はパメラ）はワールド・ゴスペル・ミッジョン（WGM）に加わり、パラグアイの宣教師としてご奉仕にも当たられました。スペイン語も流暢でラテン・アメリカ圏内の多くの集会でも、その賜物が尊く用いられています。現在、ラテン・アメリカのための宣教ディレクターとして奉仕しておられます。また昨年、南バプテスマト神学校で旧約の博士コースを修了されました。ご家族はパメラ夫人と二人のお子さん（娘・ダイアナさん13歳、息子・アイザック君18歳）がおられます。